

加佐トピックス

加佐地域

×

地域おこし協力隊

地域おこし協力隊って？

地域おこし協力隊は、田舎で暮らし地域社会に貢献したい都市部の若者と地域を担う若者不足が進む地方とをマッチングするための総務省の制度です。

「地域協力活動」の内容は、伝統・文化のプロモーションや農林水産業などさまざま。それぞれの能力や強みを生かして地域の魅力の掘り起こし、PRにつながる取り組みを行っています。

舞鶴の地域おこし協力隊

舞鶴の地域おこし協力隊は農林課に所属し西方寺地区にある「大庄屋上野家」の加佐地域農業農村活性化センターに勤務しています。

協力隊は、自身が都市部から移り住んだ経験などを生かし、田舎暮らしにあこがれる人たちの視点に立って、地域の人が気づきにくい新たな魅力の発掘・発信や体験事業などの農業ビジネスを継続して行える体制づくりに取り組むほか、移住希望者の現地案内なども行っています。

2015年に初代地域おこし協力隊に山本未佳さんが着任。今年で3年の任期を終えました。7月からは、二代目となる鈴木海峰さんが着任し、活動しています。

「初代」地域おこし協力隊

加佐×「ハイカラ」アレンジ

みか 山本未佳さん

明石市出身で京都市や長岡京市で働いていましたが、2015年に地域おこし協力隊として舞鶴市に転入。神崎地区に住んでいました。

デザインやパソコンが得意で、農産物や地域風土をPRするためイベントを企画・運営し、チラシのデザインや加佐地域農業農村活性化センターのホームページ「あいあい加佐」も作成。フェイスブックやインスタグラムでも情報発信をしました。

イベント企画ではヨーロッパなどで春に飾られる「イースター・エッグ」に着想を得た西方寺の卵のPRイベント「春のたまご祭り」やイチゴの収穫体験とスイーツづくりをセットにした「加佐いちごDay」などおしゃれでかわいい企画を考えました。また、地元の人にとってはありふれた川に着目した「沢のぼり」イベントも大盛況でした。

地域の魅力的な資源にデザインやアイデアをプラスすることで、新しい魅力や交流を生み出したかなと思っています。



▲かわいいチラシは全て自作



▲大庄屋上野家でのイベントにはたくさんの若い人や子どもが参加



▲スイーツづくりなど若い人を意識したイベント「加佐いちごDAY」



「二代目」地域おこし協力隊 地域文化に魅せられて

みほ 鈴木海峰さん

東京都府中市出身ですと東京で暮らしてきました。東京で開催された移住説明会で舞鶴市の担当者に声をかけていただき地域おこし協力隊に応募。7月に加佐地域へ引っ越してきました。

10年以上前に大江山の鬼「酒呑童子」の伝説に興味を持ち、大学でも研究していて府北部にはたびたび訪れていました。ここは私の憧れの地です。着任して間もないのですが、地域の皆さんの優しい人柄に触れ、安心して活動できそうです。

協力隊として引き継ぐ地域のPR活動は自分らしさ、強みを生かしたものにしたいと思っています。民俗文化や伝統行事にも興味があるので集落ごとのお祭りや行事にも目を向けた催しを企画しようと思っています。

移住希望者への現地案内では、自分の移住体験を伝えて、加佐地域を気に入ってもらいたいです。



▲市長から辞任を受ける（7月2日）

鬼伝説ゆかりの山々をめぐる魅惑のトレッキング

酒呑童子をはじめとした鬼の伝説が多く残る大江山連峰にある古道や登山道を活用したトレッキングコース「大江山連峰トレイル」を3月に京都府や海の京都DMO、関係市町村（福知山市、宮津市、与謝野町）、大江山連峰トレイルクラブとともに開設しました。舞鶴は大江山連峰のひとつ赤岩山があり、酒呑童子の鬼の伝説にまつわる伝統行事「大俣太鼓」「地頭太鼓」などの魅力的な文化があります。これらを生かしてイベントなどの魅力発信に取り組みます。



▲ポータルサイトや登山マップで情報を発信

プチ対談 加佐地域に思うこと

加佐地域で3年間暮らしてきた山本さんと、これから加佐地域に暮らす鈴木さん。それぞれの思いや感じることを話してもらいました。

——加佐地域の印象は？——

山本 農家さんへの敬意を強く感じるようになりました。日々にしている野菜などがどれだけの手間暇をかけて育てられ

ているかということを感じました。

鈴木 府北部には何度も訪れていましたが、暮らしてみると、道を間違えて違う集落に行ってしまうたり、近くに何でもあった東京と違い買い物にも車で出かけたほうが不便なことはあります。ですが、土や森のにおいなどを感じながら車で走るのは東京にはない楽しさです。

——人が移住してくることの意義は？——

山本 人が入ってくる、子どもがいる、ということは、集落にとって活気の源です。子連れ世帯が引っ越してきた地域の人たちからも「子どもがいると明るくなってうれしい」という声を聞きます。

鈴木 子どもがいると地域を自分の世代だけでなく、次の、その次の世代まで見据えて考えられるようになりますし、新たに移住してくる人もそういった活気ある地域を選ばれるように思います。若い世代が加佐に移り住むことで地域の伝統・文化が受け継がれてほしいです。

——加佐地域で生活するうえでの引き継ぎ事項は？——

山本 雪道の運転は本当に気を付けてください。あと、洗濯物を外に干すとカメムシだらけになるので気を付けてください（笑）。

鈴木 東京ではペーパードライバーだったので冬までには鍛えておきます。

